



平素より弊社のIR活動へのご協力に心より御礼申し上げます。



1. 2019年度 第3四半期業績概要

2019年10月～2019年12月
第3四半期連結会計期間

当第3四半期決算のトピックス

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

- 当第3四半期の売上高は、基地局向けにコンデンサの需要が大きく拡大したものの、代理店向けで在庫調整の影響を受けてコンデンサが減少したほか、スマートフォン向けに樹脂多層基板やリチウムイオン二次電池が減少し、前年同期比4.1%の減少。
- 当第3四半期の営業利益は、原価低減の取り組みを進めたものの、生産高減少による操業度損や値下げの進行により、前年同期比7.2%の減少。営業利益率は19.4%。
- 営業利益は通期の営業利益予想に対して87%の進捗。
- 期末配当を従来予想比3円増配(1株あたり47円⇒50円)

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

3

当第3四半期決算のトピックスでございます。

3カ月間の業績について、2018年度第3四半期、つまり前年同期との比較を行っております。

売上高につきましては、代理店の在庫調整の影響を受けコンデンサが減少しました。また、スマートフォン向けの樹脂多層基板やリチウムイオン二次電池が減少しました。

営業利益につきましては、製造高の減少により操業度損に加えて、値下がり の進行もあり、前年同期比で7.2%の減少の795億円となりました。営業利益率は前年同期比0.6ポイント悪化の19.4%となりました。

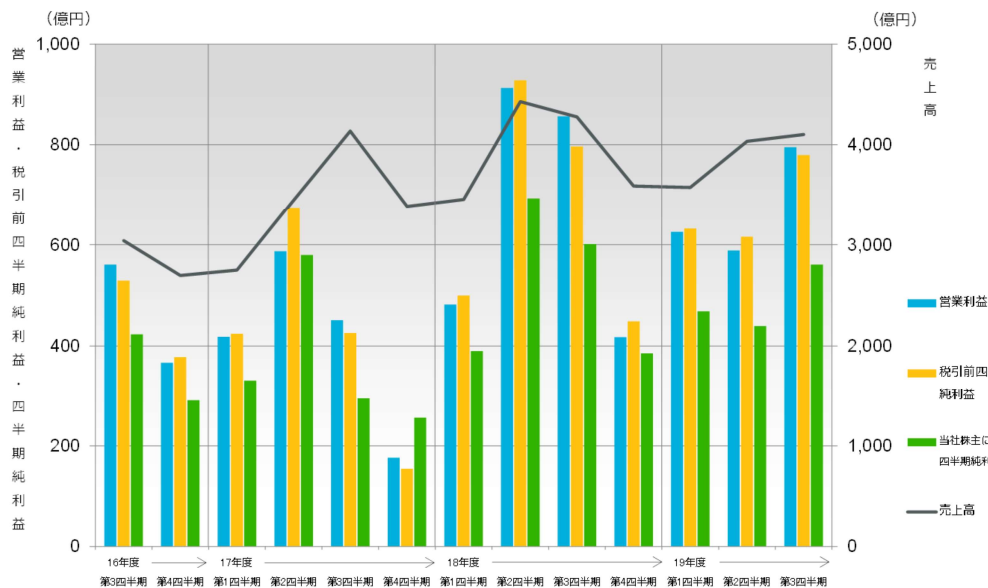
また、第3四半期までの累計の営業利益額は2,009億円と、前年同期比で10.7%減少しました。

なお、当期の業績予想は昨年10月末に見直しを行いました が、この業績予想の営業利益額2,300億円に対する進捗率としては、第3四半期までの累計で87%となっております。

なお、当第3四半期の決算短信の表紙に記載の通り、当期の期末配当についての予想を変更しております。従来予想では、1株当たり47円としておりましたが、本日、50円へ変更する旨の適時開示を行いました。
期末配当予想は従来予想比で一株当たり3円の増配となります。

業績推移 [四半期]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

4

売上高、営業利益、税引前四半期純利益、当社株主に帰属する四半期純利益、の四半期毎の推移を示したグラフです。

当期は、第1四半期から第2四半期で、季節要因もあり売上が大きく伸びました。一方で、第1四半期では在庫評価単価の上昇に伴う原価差額を計上した影響もあり、第2四半期の利益額は、第1四半期に比べて僅かながら減少しておりました。

冒頭に当第3四半期のトピックスとして申し上げました通り、当第3四半期は、前年同期比では、減収減益となりましたが、直近の当第2四半期との比較では、売上高は68億円、1.7%の増加、営業利益は207億円、35.1%の増加となっております。

業績概況

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



	2018年度 第3四半期		2019年度 第2四半期		2019年度 第3四半期		前年同期比 19Q3/18Q3		直近四半期比 19Q3/19Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	4,276	100.0	4,034	100.0	4,102	100.0	▲174	▲4.1	+68	+1.7
営業利益	856	20.0	588	14.6	795	19.4	▲61	▲7.2	+207	+35.1
税引前四半期純利益	797	18.6	616	15.3	780	19.0	▲17	▲2.2	+164	+26.6
当社株主に帰属する 四半期純利益	601	14.1	439	10.9	561	13.7	▲41	▲6.8	+121	+27.7

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

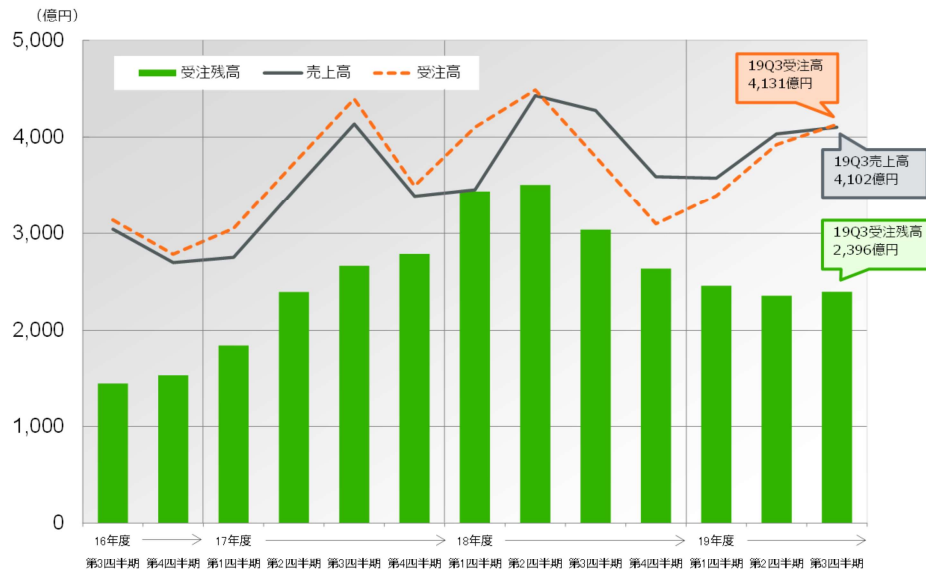
5

売上高、営業利益、税引前四半期純利益、当社株主に帰属する四半期純利益、について、前年同期比、および、直近四半期比、の増減を比較した業績概況でございます。

直近四半期比では、売上高の伸びに比べて、営業利益の増加が大きくなっております。これは主に、第2四半期でモバイル向け電池の生産設備に係る減損損失を計上したことによる影響です。

売上・受注・注残推移 [四半期]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

6

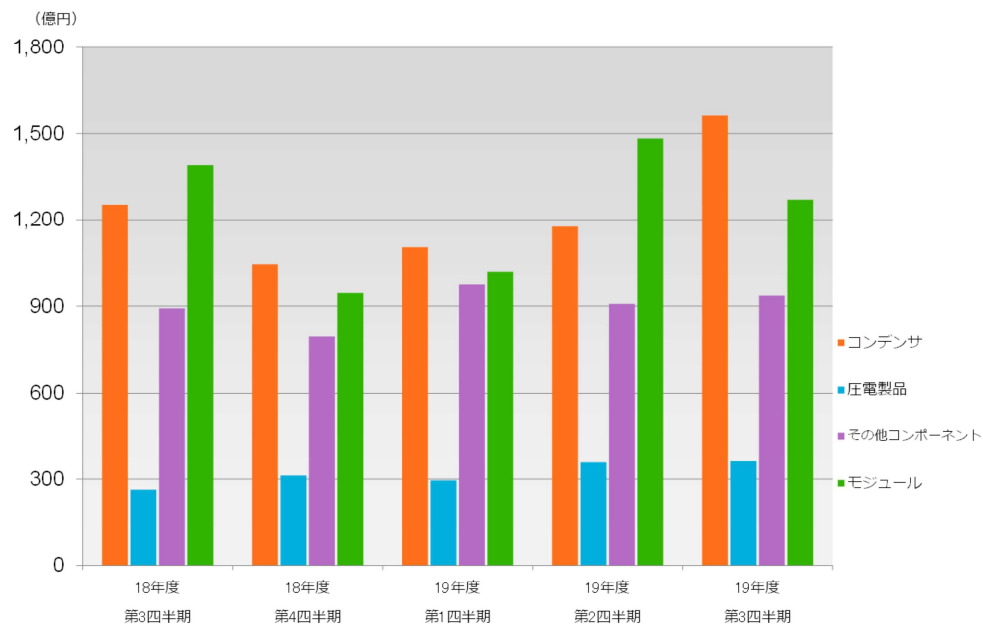
売上高、受注高、受注残高の四半期別推移でございます。

昨年の第2四半期以降、受注高が売上高を下回る状況が継続し、受注残高が減少し続けておりました。

当第3四半期では、僅かですが、受注高が売上高を上回っております。

製品別受注高推移

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

7

四半期毎の製品別の受注高の推移でございます。

直近の第2四半期との比較では、コンデンサが増加、モジュールは減少、となりました。圧電製品とその他コンポーネントでは大きな増減はありませんでした。

モジュールの受注高は、第2四半期の受注高が高水準であったこともあり、季節要因もあって、スマートフォン向けで減少したものです。

コンデンサの受注高は、基地局向けや自動車向けで増加しております。

昨年の第3四半期の受注高との比較では、モジュールが減少しておりますが、コンデンサ、圧電製品、その他コンポーネントは増加しております。

モジュールはスマートフォン向けの減少、コンデンサは基地局向け、スマートフォン向け、自動車向け、など幅広い用途で増加しております。

製品別売上高

	2018年度 第3四半期		2019年度 第2四半期		2019年度 第3四半期		前年同期比 19Q3/18Q3		直近四半期比 19Q3/19Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,583	37.1	1,378	34.2	1,457	35.6	▲126	▲7.9	+80	+5.8
圧電製品	321	7.5	319	7.9	336	8.2	+16	+4.9	+17	+5.5
その他コンポーネント	992	23.3	986	24.5	928	22.7	▲64	▲6.5	▲58	▲5.9
モジュール	1,371	32.1	1,343	33.4	1,370	33.5	▲0	▲0.1	+0	+2.0
製品売上高計	4,266	100.0	4,025	100.0	4,092	100.0	▲175	▲4.1	+66	+1.6

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

8

製品別の売上高概況でございます。

前年同期との比較についてですが、

コンデンサは、基地局向け需要が増加した反面、代理店での在庫調整の影響を受け減少しました。

圧電製品は、表面波フィルタが中華圏スマートフォン向けで増加しております。

その他コンポーネントは、リチウムイオン二次電池が、電動工具向けやスマートフォン向けで減少しました。

コンデンサとリチウムイオン二次電池の減少が大きく、製品売上高計でも前年同期比で175億円、4.1%の減少となりました。

製品別売上高概況
[2019年度第2四半期→2019年度第3四半期]



コンデンサ (直近四半期比+5.8%)	○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 基地局向けに中高圧品の需要が拡大したことやハイエンドスマートフォン向けで増加
圧電製品 (直近四半期比+5.5%)	○表面波フィルタ 中国スマートフォン向けで増加
その他コンポーネント (直近四半期比▲5.9%)	▲リチウムイオン二次電池 ゲーム機向けやP C向けで減少 ▲コネクタ ハイエンドスマートフォン向けやタブレットP C向けで減少 ▲コイル ハイエンドスマートフォン向けで減少
モジュール (直近四半期比+2.0%)	○通信機器用モジュール ハイエンドスマートフォン向けで増加 ○近距離無線通信モジュール タブレットP C向けで減少したものの、ハイエンドスマートフォン向けで増加 ▲樹脂多層基板 ハイエンドスマートフォン向けで減少

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

9

製品別の売上高について、直近四半期との比較では、その他コンポーネントが減少したものの、コンデンサ、圧電製品、モジュールは増加しました。

各製品別売上高の増減理由については、記載の通りです。

用途別売上高

	2018年度 第3四半期		2019年度 第2四半期		2019年度 第3四半期		前年同期比 19Q3/18Q3		直近四半期比 19Q3/19Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	175	4.1	177	4.4	148	3.6	▲26	▲15.0	▲29	▲16.2
通信	2,133	50.0	2,121	52.7	2,261	55.3	+128	+6.0	+140	+6.6
コンピュータ及び関連機器	680	15.9	606	15.1	581	14.2	▲99	▲14.5	▲25	▲4.2
カーエレクトロニクス	660	15.5	661	16.4	662	16.2	+1	+0.2	+0	+0.0
家電・その他	619	14.5	460	11.4	439	10.7	▲180	▲29.0	▲20	▲4.4
製品売上高計	4,266	100.0	4,025	100.0	4,092	100.0	▲175	▲4.1	+66	+1.6

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高の概況でございます。

前年同期との比較ですが、

通信向けは増加したものの、カーエレクトロニクスは横這いとなり、A V、コンピュータ及び関連機器、家電・その他、はいずれも減少となりました。

A Vについては、デジタルカメラ向けの近距離無線通信モジュールやコンデンサが減少し、セットトップボックス向けのコンデンサの減少が影響しました。

通信については、通信機器用モジュールやコンデンサが増加しました。

コンピュータ及び関連機器については、タブレットP C向けなどで、近距離無線通信モジュールやコンデンサ、リチウムイオン二次電池が減少しました。

家電・その他は、代理店の在庫調整の影響により大きく減少し、製品売上高計でも、前年同期比で175億円、4.1%の減少となりました。

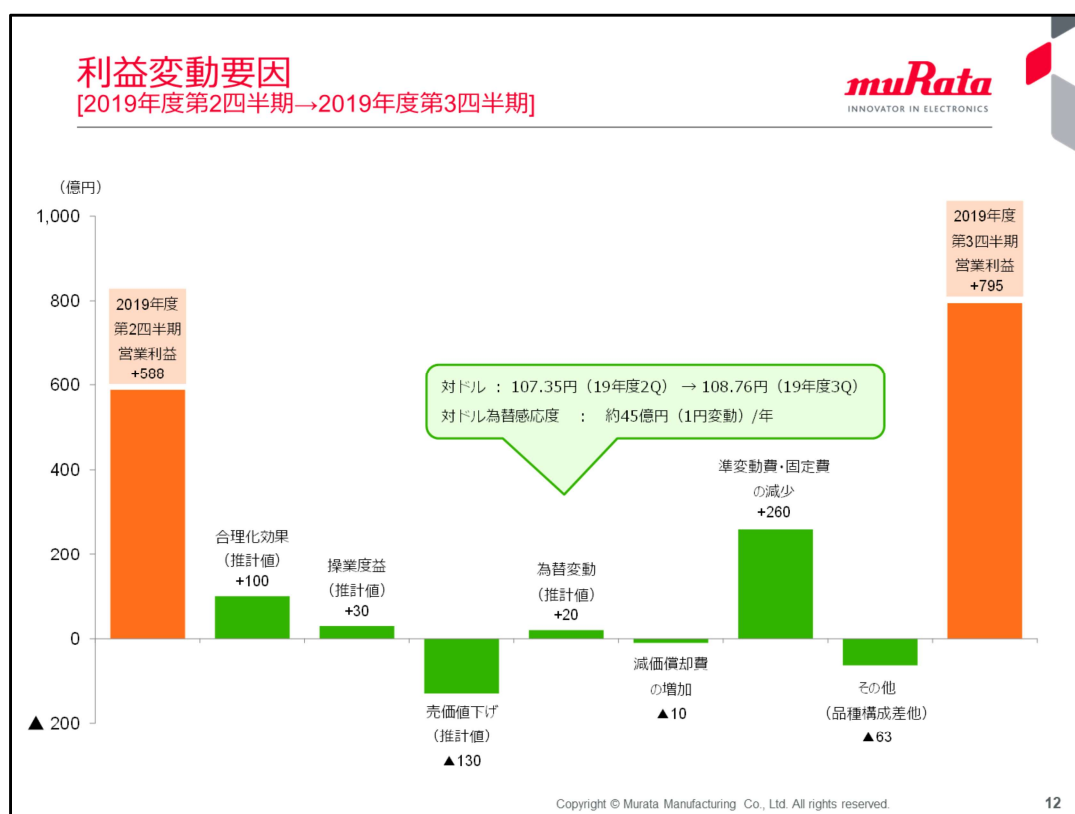
用途別売上高概況
[2019年度第2四半期→2019年度第3四半期]

A V (直近四半期比▲16.2%)	▲ ゲーム機向けでリチウムイオン二次電池やコンデンサが減少
通信 (直近四半期比+6.6%)	○ 基地局向けでコンデンサが大幅に増加 ○ ハイエンドスマートフォン向けで通信機器用モジュールや近距離無線通信モジュールが増加
コンピュータ及び関連機器 (直近四半期比▲4.2%)	▲ タブレットPC向けで近距離無線通信モジュールやコンデンサが減少
カーエレクトロニクス (直近四半期比 横這い)	○ 安全装置向けやインフォテインメント向けで車載用コンデンサが増加 ▲ 電動自転車向けでリチウムイオン二次電池が減少

(注) 当社推計値に基づいております

用途別の売上高について、直近四半期との比較では、A V、コンピュータ及び関連機器、家電・その他は減少したものの、通信の増加が大きく、製品売上高計でも、直近四半期比で、66億円、1.6%増加しました。

各製品別売上高の増減理由については、記載の通りです。



営業利益の変動要因でございます。

直近の第2四半期との比較で、当第3四半期の営業利益は、207億円増加しました。

第2四半期では、リチウムイオン二次電池で、モバイル向け電池の減損損失を198億円計上しました。また、第2四半期と比べて、第3四半期は、原材料の売却益が11億円減少しました。

これらの特殊要因を除きますと、第2四半期に比べて第3四半期では営業利益が20億円増加しています。

利益変動要因の中では、準変動費・固定費の減少が最も大きな影響額となっておりますが、これは先ほど申し上げた減損損失に加え、コンデンサやリチウムイオン二次電池で生産関連費用が減少したことによるものです。

また、品種構成差につきましては、先ほど申し上げた原材料の売却益の減少に加えて、第1四半期で計上した在庫評価単価の上昇に伴う原価差額の一部が解消されたことによるものです。



2. 2019年度 業績予想

2019年4月～2020年3月

2019年度 業績予想



	前回予想（19年4月）			今回予想（19年10月）					
	上期予想	下期予想	2019年度 通期予想	上期実績		下期予想		2019年度 通期予想	
				(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	7,650	8,150	15,800	7,609	100.0	7,491	100.0	15,100	100.0
営業利益	1,155	1,045	2,200	1,214	16.0	1,086	14.5	2,300	15.2
税引前当期純利益	1,165	1,055	2,220	1,248	16.4	1,072	14.3	2,320	15.4
当社株主に帰属する 当期純利益	890	810	1,700	907	11.9	793	10.6	1,700	11.3
為替（円/USD）	110.00			108.63		107.00		107.81	

10月公表値の見直しを行っておりません。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

14

当年度の業績予想でございます。

昨年4月末に公表した業績予想を、昨年10月末に見直しいたしましたが、その後、業績予想の見直しは行っておりません。

配当

2019年度（2020年3月期）の配当（予定）
1株当たり年間97円
（中間配当47円／期末配当50円）
※期末配当を従来予想比3円増配

2018年度（2019年3月期）の配当実績
1株当たり年間280円
（中間配当140円／期末配当140円）

（注）当社は、2019年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。なお2020年3月期（予想）の配当金については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

配当予想でございます。

当期の期末配当についての予想を変更しております。
従来予想では、1株当たり47円としておりましたが、50円への変更を行います。
期末配当予想は従来予想比で一株当たり3円の増配となります。

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

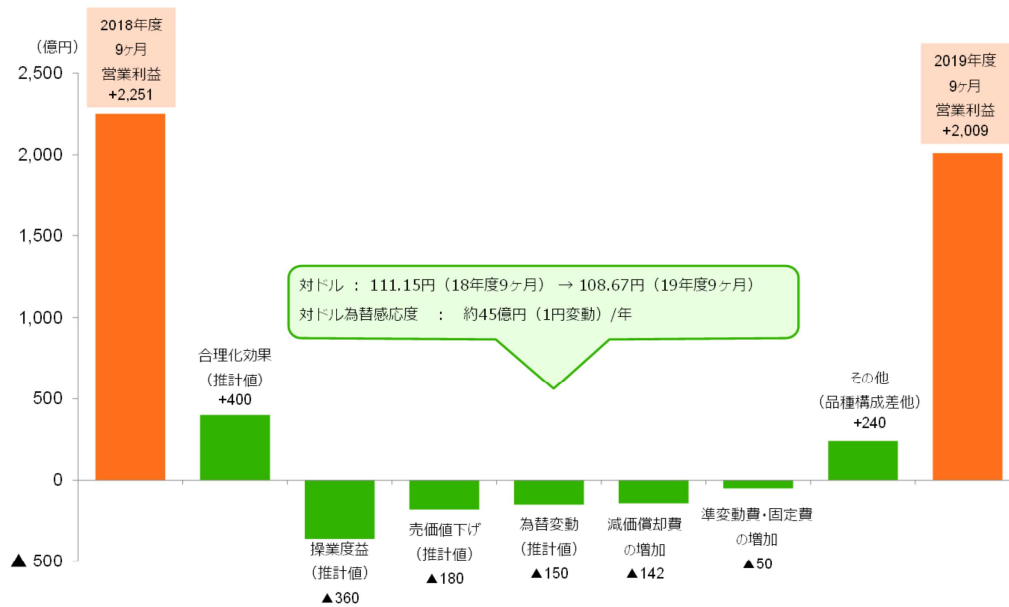
muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



利益変動要因

[2018年度9ヶ月累計実績→2019年度9ヶ月累計実績]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

18